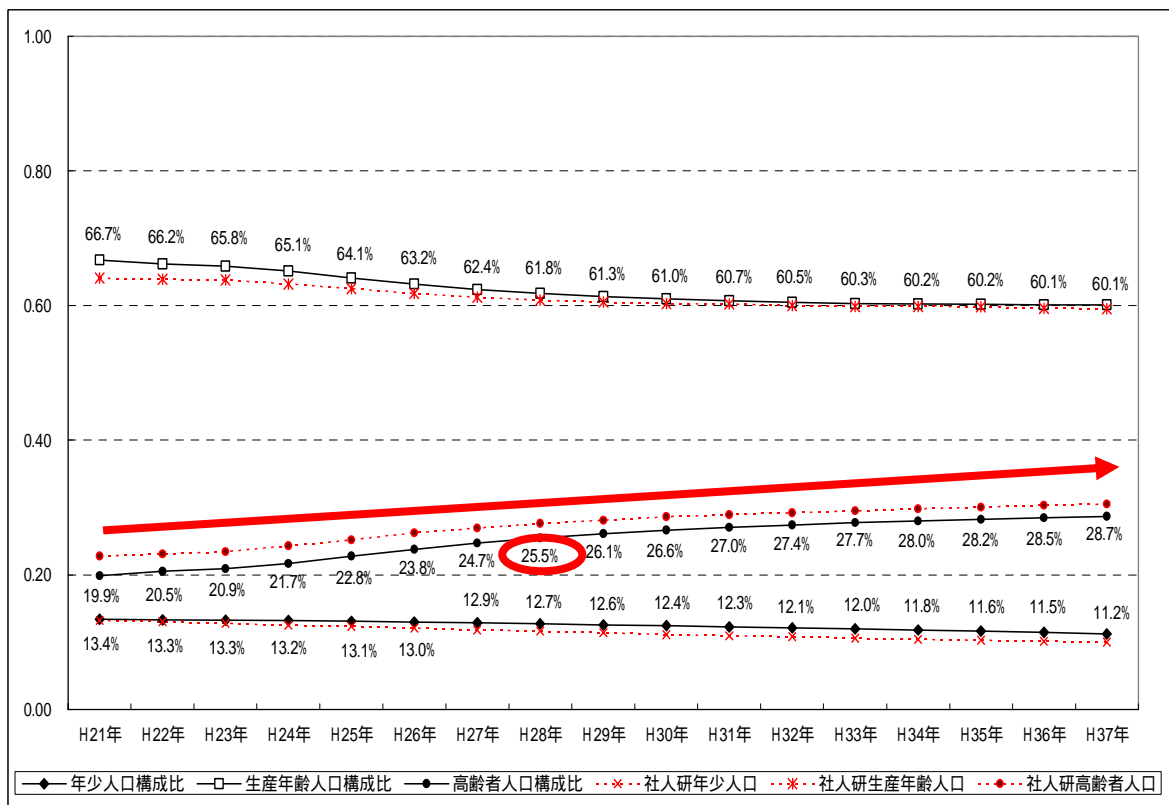


1. 急速な高齢化の進展

国民の食生活の改善や衛生水準の向上、医学・医療の進歩等により、日本人の平均寿命が延びたこと等から、我が国では人口の高齢化が進展しています。我が国の高齢化の特徴は、少子化の傾向と相まって、世界に例を見ない速さで進行していることです。

千葉県の高齢化率は平成19年現在19.3%(全国平均21.5%)であり、全国では6番目に低い数値ですが、現在、全国的にも高い伸び率で高齢者人口が増加しており、平成28年には、高齢化率が25%を超え、約4人に1人が高齢者となる見込みです。(図2-1)

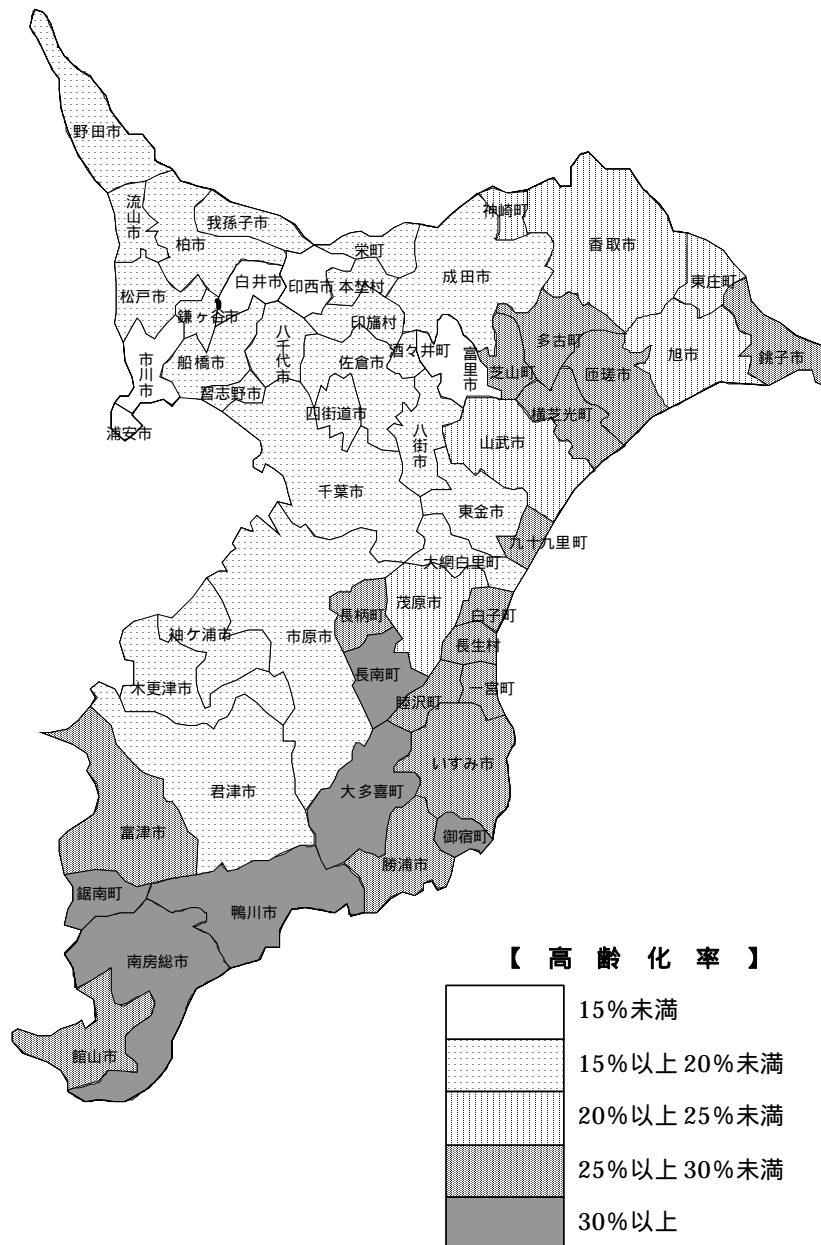
(図2-1) 千葉県の将来人口推計における年齢区分別構成比(県試算)
(破線は、国立社会保障・人口問題研究所の全国中位推計構成比)



千葉県内の高齢化率は地域ごとに異なり、すでに県南部においては、30%を超えるような市町村もありますが、いわゆる「団塊の世代」が65歳を迎える2010年代前半(平成24年～平成26年)には、比較的高齢化率の低い県西部や千葉市とその郊外地域において、急速に高齢者人口が増加すると見込まれています。

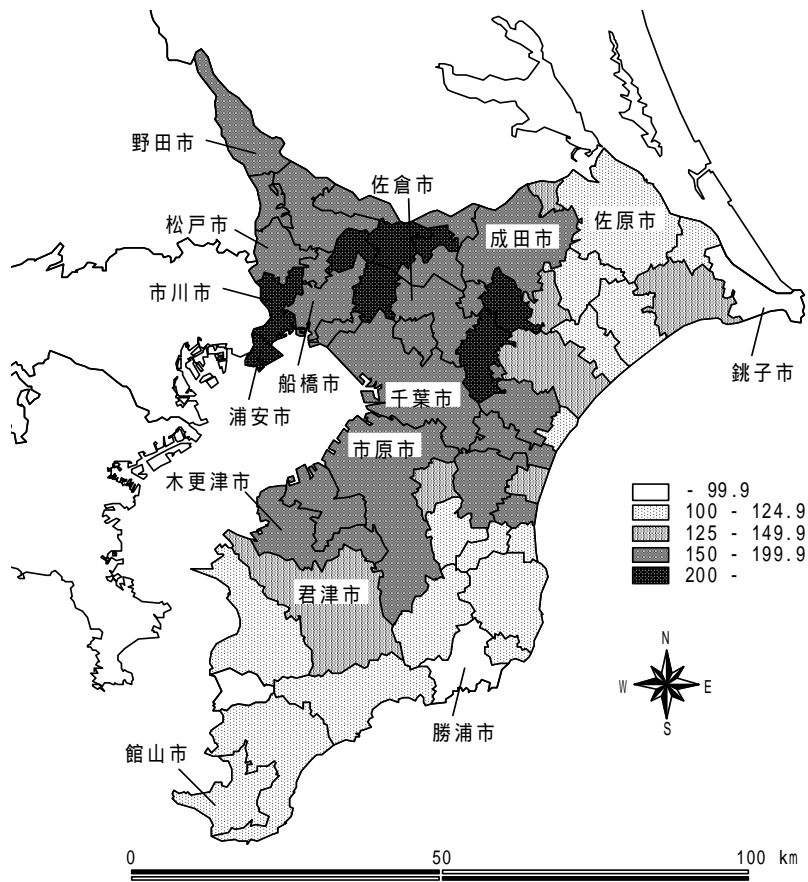
(図2-2、2-3)

(図2-2) 市町村ごとに見た高齢化の状況(平成17年10月1日現在)



総務省統計局「平成17年国勢調査結果」をもとに作成。

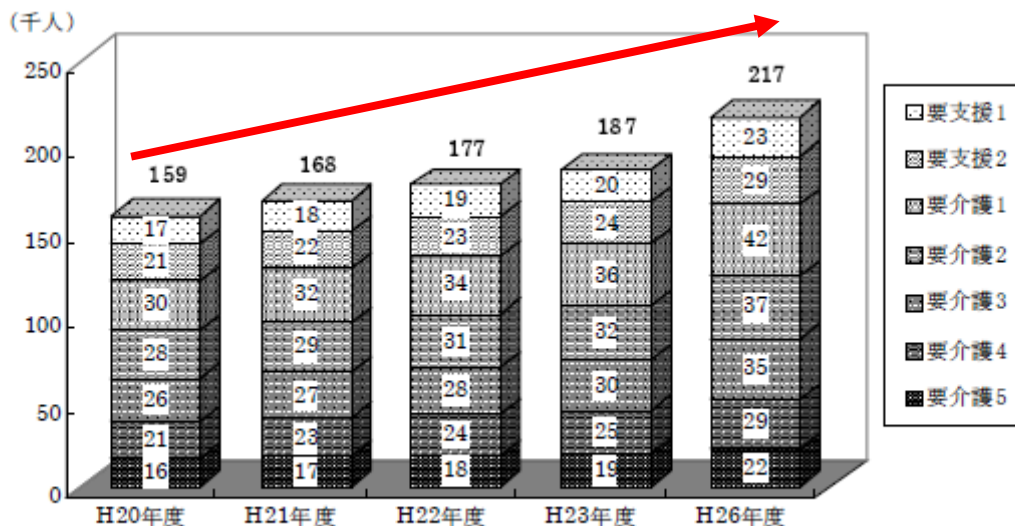
(図 2 - 3) 千葉県内市町村の平成 4 7 年の老年人口指数
 (平成 17 (2005) 年 = 100.0 とした場合)



「日本の市区町村別将来推計人口（平成 20 年 12 月推計）」より、国立社会保障・人口問題研究所作成

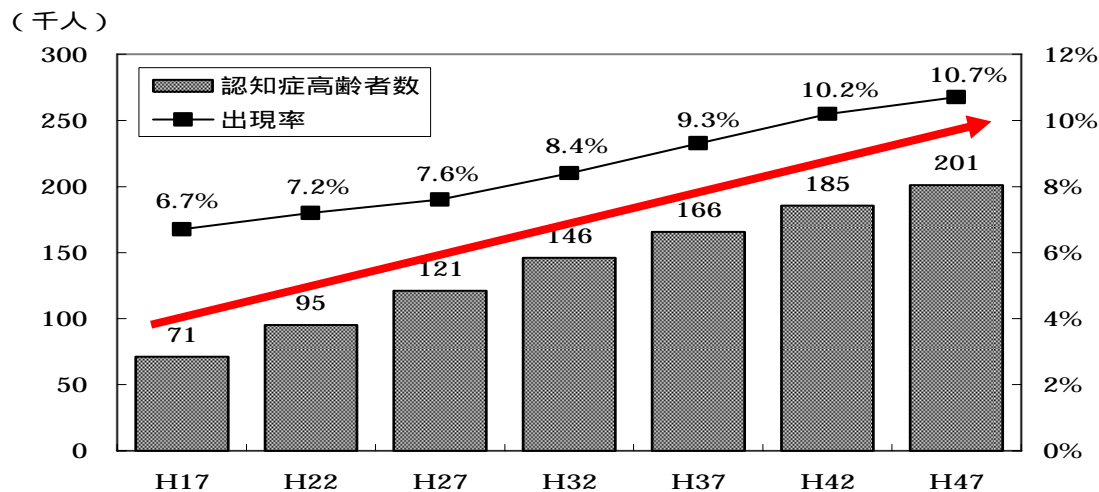
このような急速な高齢化に伴い、介護を必要とする高齢者数（図 2 - 4）や認知症高齢者数（図 2 - 5）も急激に増加することが見込まれていることから、介護サービス基盤の整備を図ることが急務であり、それを支える福祉・介護人材の確保・定着を図ることが非常に重要な課題となっています。また、住み慣れた地域で支え合い・助け合い、個人の尊厳を保ちながら、安心して生活できる地域社会づくりが求められています。

(図2-4) 要介護(要支援)高齢者数の状況と将来推計(千葉県)



※保険指導課「第4期介護保険事業運営期間における保険料等の調査」(平成21年1月27日)。

(図2-5) 認知症高齢者数の将来推計(千葉県)



「出現率」は全国の要介護(要支援)高齢者における認知症高齢者(自立度 以上)の出現率
厚生労働省「2015年の高齢者介護」より(出現率は65歳以上人口比)

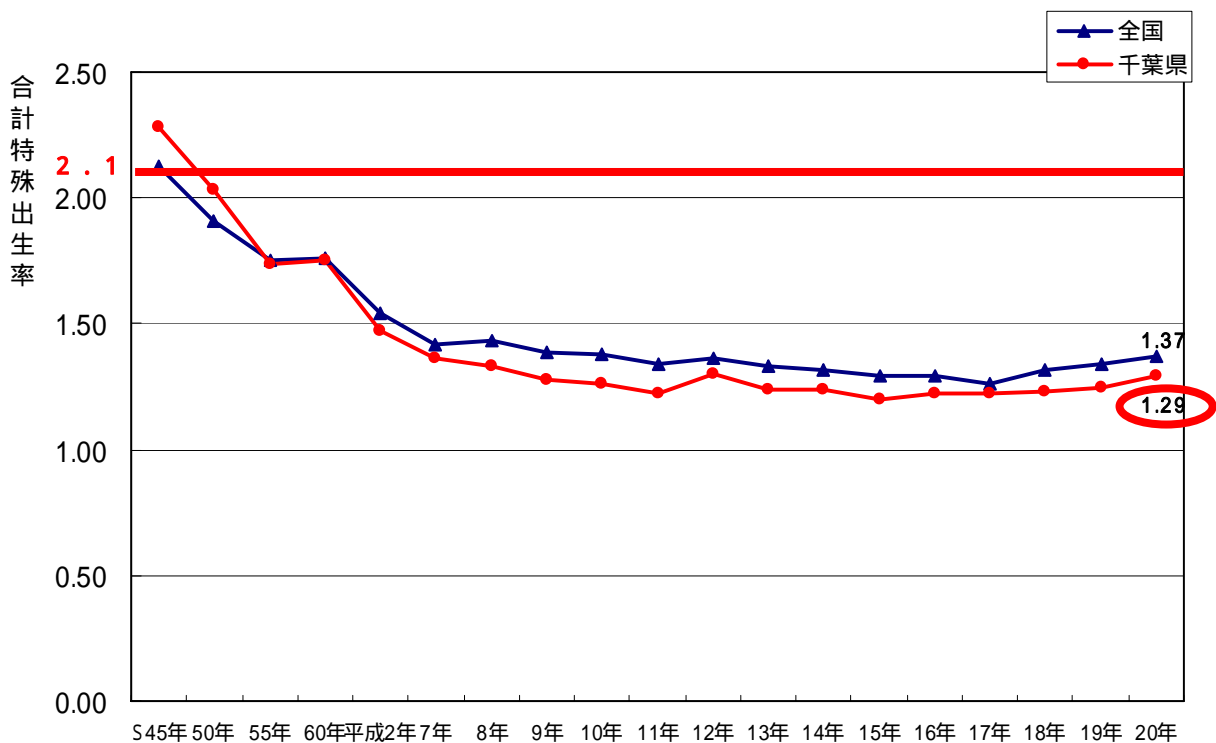
「認知症高齢者数」は要介護(要支援)高齢者における認知症高齢者(自立度 以上)の将来推計(千葉県)
厚生労働省「2015年の高齢者介護」における認知症高齢者出現率に基づき推計

自立度 : 日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。

2. 生産年齢人口の減少と少子化の進行

千葉県の合計特殊出生率は、昭和50年頃から低下傾向にあります。また、昭和60年からは全国平均を下回る状況が続き、平成20年には1.29であり、人口を維持していくのに必要な値とされている2.1を大きく下回っています。(図2-6)

(図2-6) 合計特殊出生率の推移(全国・千葉県)



(厚生労働省：人口動態統計)

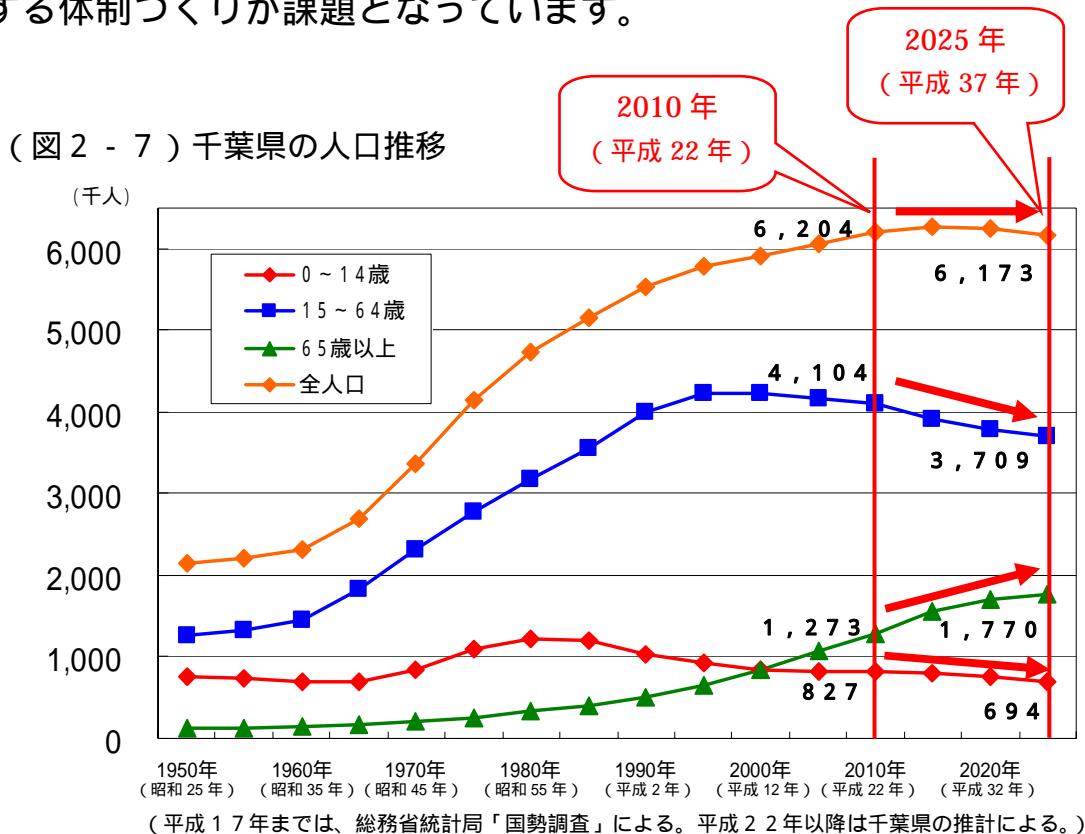
合計特殊出生率とは

出産可能年齢(15~49歳)の女性に限定し、各年齢ごとの出生率を足し合わせ、一人の女性が生涯、何人の子供を産むのかを推計したもの。

我が国では人口減少社会の到来を迎えており、千葉県の人人口も、平成20年代末頃までは増加を続けるものの、その後は減少に転じる見込みです。また、それに先立ち生産年齢人口（15～64歳）は、平成10年代前半をピークに減少を続けています。（図2-7）

千葉県の子どもの数（0～14歳）は、平成22年（推計）では約82万7千人で、千葉県の人人口に占める割合は約13.3%ですが、抜本的な少子化対策が取られなければ、子どもの数は、平成37年（2025年）には、現在の約84%の水準まで減少する見込みです。

少子化の背景には、結婚・出産に対する価値観の変化や核家族化の進展等の地域社会の変化、家計の経済基盤の不安定化等様々な要因があると考えられており、仕事と子育てを両立できる環境整備や子育てに対する医療・福祉施策の充実等と共に地域社会全体で子育てを支援する体制づくりが課題となっています。



3. 核家族、一人暮らし世帯の増加による「家族力」の低下

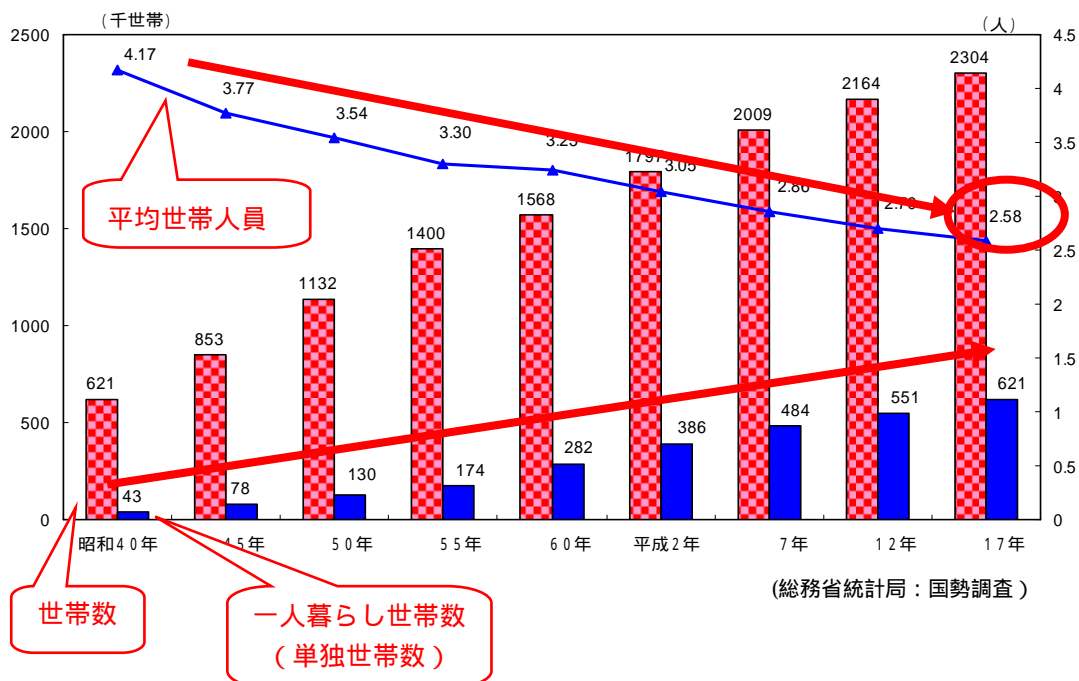
千葉県内の世帯数は増加していますが、平均世帯人員は減少傾向にあり、平均世帯人員は平成17年では2.58名でした。(図2-8)

また、全世帯数に占める一人暮らし世帯(単独世帯)数の割合とその数は増加傾向にあり、核家族世帯数も年々増加しています。

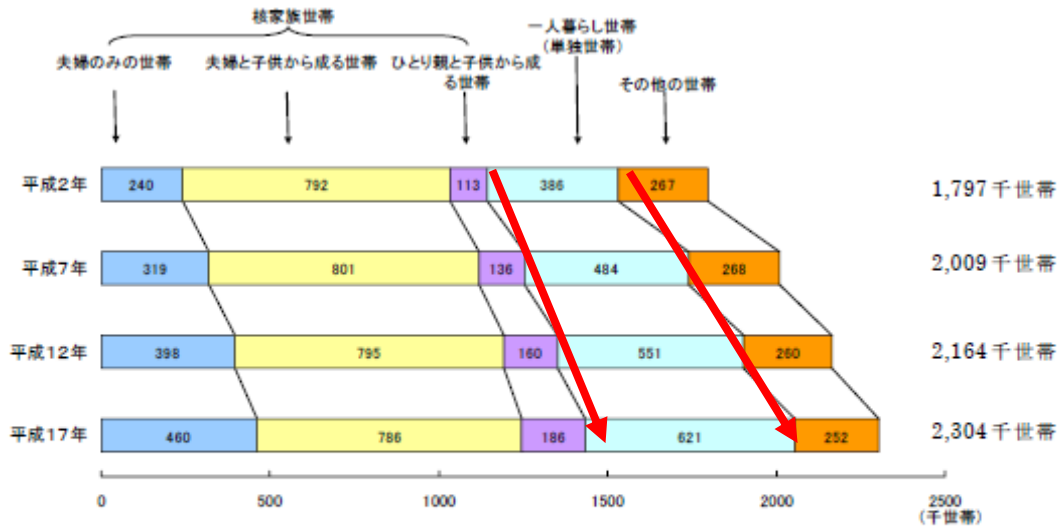
(図2-9)

この傾向は今後も続くと推測され、これまで自助システムとして機能してきた家族内の支え合い(家族力)の弱体化を補う、地域による支え合いの必要性がこれまで以上に高まっています。

(図2-8) 平均世帯人員及び世帯数の推移(千葉県)



(図 2 - 9) 一般世帯の家族類型別世帯数の推移 (千葉県)



* 「その他の世帯」とは、「夫婦と両親から成る世帯」や「兄弟姉妹のみから成る世帯」などの世帯をいう。 (総務省統計局：国勢調査)

千葉県内の65歳以上の一人暮らし高齢者は、平成17年は136,972人であり、その割合を圏域別に見てみると、特に東京に近い都市部において高い傾向にあります。(図 2 - 10)

また、千葉県内の65歳以上の一人暮らしの高齢者は平成32年には約28万2千人と約2倍に増加するものと見込まれています。(図 2 - 11)一人暮らしの高齢者は、健康面、社会生活等において、不安とリスクを抱えていることが多く、地域で見守る体制づくりが必要です。

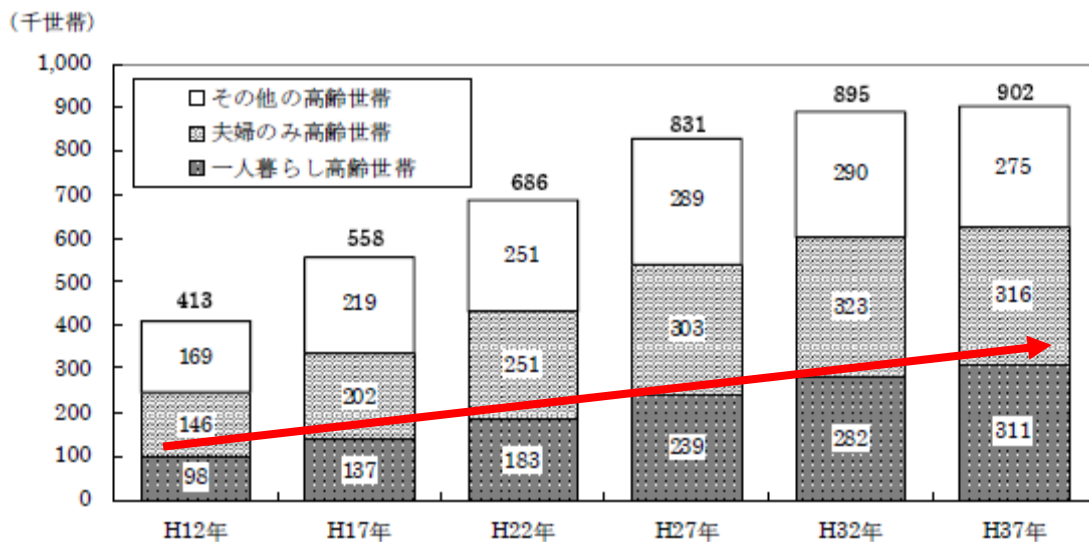
(図2-10) 一人暮らし高齢者の割合 (千葉県高齢者福祉圏域別)

(単位:人、%)

圏域	一人暮らし 高齢者数①	65歳以上人口②	高齢者全体に 占める割合(①/②)
千葉県	23,497	152,231	15.4%
東葛南部	37,142	245,537	15.1%
東葛北部	28,653	215,447	13.3%
印旛	10,882	107,931	10.1%
香取海匝	6,969	77,566	9.0%
山武長生夷隅	11,605	108,183	10.7%
安房	6,141	43,533	14.1%
君津	6,599	63,542	10.4%
市原	5,484	46,373	11.8%
県全体	136,972	1,060,343	12.9%

※総務省統計局「国勢調査結果(平成17年10月1日現在)」をもとに作成。

(図2-11) 今後の高齢世帯数の推計(千葉県)



平成17年までは、総務省統計局「国勢調査結果」をもとに作成(各年10月1日現在)。
 平成22年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」
 (平成17年8月推計)より

4 . 県内各地における地域課題

急速な高齢化が進む県西部

千葉県は、東葛飾地区や京葉臨海部を中心に、高度経済成長期に都心のベッドタウンとして急激な人口増に伴う社会資本の整備を進め成長してきました。全国から多くの労働者を受け入れてきた反面、「千葉都民」と呼ばれるように、地域社会への帰属意識が十分に醸成されてきませんでした。

最近では、開発・入居から30～40年程度経過した大規模な団地・ニュータウンを中心に、建物の老朽化や空き家の発生、住民の高齢化等の問題が顕在化しており、自治会の活性化や定年退職者（新たに生活の中心が地域になる方々）への働きかけ、継続的な活動の拠点の確保等により地域住民自らが主体となる地域社会の再構築が求められています。

人口減少が進む県南部・東部

一方、昭和30年代半ば以降、千葉県の人口が急激に増加している状況においても、公共交通へのアクセスが不十分である地域や、主要産業が第1次産業である地域(過疎法の指定地域など)等においては、一貫して人口が減少し続けてきました。

この地域においては、道路、産業基盤、生活関連インフラなどの社会資源の充実を図るとともに、広域的な連携強化による地域資源の有効活用が不可欠です。また、従来から培われてきた自治活動（消防団活動やお互いの顔の見える助け合い）や生涯現役のライフスタイル（例：農業など定年のない就労）等、都市部に無い長所を活かし、地域づくりを進める必要があります。

5 . まとめ（地域の課題）

1 家族内の支え合い「家族力」の低下

核家族世帯や高齢者世帯の増加等により家族内の支え合い「家族力」が低下し、家族内の問題解決力が低下しています。

2 地域の支え合い「地域力」の低下

生産年齢人口の減少や地域活動組織の構成員の高齢化等から、地域福祉の担い手不足が予想されています。

3 要支援者の把握

支援に繋がりにくい独居者、認知症高齢者等の増加が見込まれ、また、プライバシーを重視する傾向等もあり、要支援者の所在やそのニーズを把握することが難しくなっています。

4 医療・福祉サービスの質と量の確保

地域生活を支えるために必要な医療・福祉サービスの質・量の将来的な確保が懸念されています。





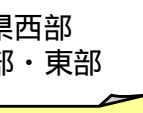

5 地域課題の複雑化・多様化

社会の成熟化により、地域課題は複雑化・多様化しており、家族や特定の機関のみで要支援者を支えることが難しくなっています。

また、地域の姿や課題は、それぞれの地域において様々であり、全県一律的な対応では解決できません。

(図 2 - 1 2)

地域の現状と課題(まとめ)

現 状		課 題	
千葉県内の現状 (第2章参照)	1 急速な高齢化の進展 	1 家族内の支え合い 「家族力」の低下 2 地域の支え合い 「地域力」の低下 3 要支援者の把握 4 医療・福祉サービスの質と量の確保 5 地域課題の複雑化・多様化 	
	2 生産年齢人口の減少 少子化の進行 		
	3 核家族、一人暮らし 世帯の増加 		
	4 急速な高齢化が進む県西部 人口減少が進む県南部・東部 		
5 社会経済状況・労働環境の変化 個人主義的傾向の拡大 新たな社会問題の発生 			
社会の変化 (第1章参照)			

地域を取り巻く課題

